

出演者紹介

管弦楽

四国フィルハーモニー管弦楽団

Shikoku Philharmonic Orchestra

四国フィルハーモニー管弦楽団は、1987年7月、高知県、愛媛県を中心とする各地の若い奏者たちが集まり結成。現在は、四国を中心に全国各地から多くの奏者が集まり、高知での定期公演や愛媛、香川での室内楽公演、オペラ、バレエなど、各地で好評を得ている。これまでに指揮者の豊嶋和史、星出豊、服部克久、本山秀毅、菊地俊一、中橋健太郎左衛門、現田茂夫、守山俊吾、澤和樹、直井大輔、田中祐子各氏と共演。
令和4年度高知県文化賞受賞。



1979年、東京藝術大学大学院修了。「安宅賞」受賞。ロン＝ティボー、ヴィエニャフスキ、ミュンヘンなどの国際コンクールに入賞。イザイ・メダル、ボルドー音楽祭金メダル受賞などヴァイオリニストとして国際的に活躍。'80年より文化庁在外研修員としてロンドンに派遣され、ジョージ・パウク、ペラ・カトーナ両氏に師事。'84年に東京藝大に迎えられるとともに本格的な演奏活動を開始。'89年には、文部省在外研究員としてロンドンの王立音楽院に派遣され、さらに研鑽を重ねた。この時期、アマデウス弦楽四重奏団メンバーとの出会いにより澤クワルテットの結成を決意する。'96年より指揮活動を開始、九州交響楽団、東京フィル、日本フィル、札幌交響楽団、紀尾井ホール室内管弦楽団等にも客演し好評を博す。東京藝術大学音楽学部教授、音楽学部長を経て2016年より2022年まで東京藝術大学長。2023年、韓国文化体育観光部長官賞を受賞。現在、東京藝術大学・英国王立音楽院名誉教授。昭和音楽大学客員教授、東京大学先端科学技術センター・フェロー。ゆすはら未来大使。



フランスの至宝。86歳を超えた今も、現役の巨匠ヴァイオリニストであり、偉大な教育者である。11歳でパリ国立高等音楽院に入学し、2年後に首席卒業。18歳でパガニーニ国際コンクール優勝。H・シェリング等の巨匠に師事。パリ管弦楽団、フランス国立管弦楽団等、共演したオーケストラは枚挙に暇がなく、世界中でソリストとして活躍。審査員(長)として数々の国際コンクールにも招かれる。長年教授を務めたパリ国立高等音楽院退官後、パリ市立音楽院とエコール・ノルマル音楽院で教鞭を執り、2005年から2009年までは東京芸術大学の客員・招聘教授を務めた。2010年から現在は昭和音楽大学で客員教授を務める。日本中でマスタークラスを行う。これまで数多くのコンクールで優勝者や上位入賞者を輩出し、日本のヴァイオリン界のレヴェルアップに貢献している。生涯で70枚以上のCD(LP)を出している。日本弦楽指導者協会、及び日本フォーレ協会名誉会員。日本をこよなく愛し、日本とフランスをほぼ半々に生活している。1995年にフランス芸術文化勲章及び1999年に文化功労賞を受賞。2019年5月にフランス文化省から、フランス芸術文化勲章の最高位コマンドール(Commandeur de l'ordre des Arts et des Lettres)を叙勲。2019年8月に日本国内で第1回ジェラルド・プーレ・ヴァイオリン・コンクールを開催し、楽器の貸与を実施した。2023年8月の85歳になる前日に、メンデルスゾーンの協奏曲をオーケストラと録音する偉業を果たした。

www.gerard-poulet.com



ゆすはら座

『ゆすはら座』は、昭和23年に高知県梶原町が建設し、平成7年に現在の場所に移転復元された木造芝居小屋です。大正時代の和洋折衷様式を取り入れた建築物は、隈研吾氏が保存活動に関わる中で、その木の香りや床の音、そして時が止まるような居心地の良さを再発見した場所であり、彼にとって建築の原点とされています。